

3年1組 体育科学習指導案

授業日 平成26年7月3日(木) 3校時
 授業者 附属新潟小学校 教諭 山形 昭
 会場 体育館

1 単元名 「グラグラ配達人～我が社は、ていねいに荷物を運びます～」 <A 体づくり運動 イ 多様な動きをつくる運動 ～(オ)基本的な動きを組み合わせる運動～>

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領の第3学年及び第4学年の2内容のA体づくり運動に、次のように示されている。

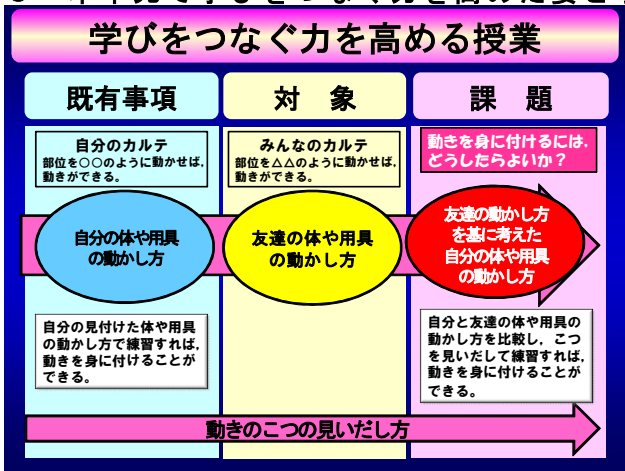
運動	(1) 次の運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な動きができるようにする。 イ 多様な動きをつくる運動では、体のバランスや移動、用具の操作などとともに、それらを組み合わせる。
態度	(2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
思考・判断	(3) 体づくりのための運動の行い方を工夫できるようにする。 イ 多様な動きをつくる運動の行い方を知り、友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れる。

本単元では、多様な動きをつくる運動(イ)基本的な動きを組み合わせる運動を取り上げる。基本的な動きを組み合わせる運動とは、本単元においては、(ア)体のバランスをとる運動と(イ)体を移動する運動を組み合わせた運動のことである。具体的には、箱やボール、棒などを掌に載せ、バランスをとりながら平均台を移動する運動である。

第1学年及び第2学年では、(ア)体のバランスをとる運動遊び、(イ)体を移動する運動遊び、(ウ)用具を操作する運動遊び、(エ)力試しの運動遊びで構成されていたが、第3学年及び第4学年からは、「運動遊び」が「運動」に変化し、さらに、(オ)基本的な動きを組み合わせる運動が新たに加わった。基本的な動きを組み合わせる運動とは、「～しながら～する」という2つの動きを同時に行うことをとおして、巧みに動いたり、より滑らかに動いたりすることができるようにし、動きの質を高めることをねらいとしている。また、第3学年からは「渡るなどの動きで構成される運動」が新たに追加された。以上のことから、本単元で扱う運動は、多様な動きをつくる運動として非常に価値のあるものである。

さらに、本単元では、自分と友達の体や用具の動かし方を比較させて動きを身に付けるための「動きのこつ」を見いださせる。それにより、子どもは、他の運動場面でも自分のできない原因とその運動における動きのこつとを関係付けて考えようとする態度が養われ、生涯にわたって運動に親しむことにつながる。

3 本単元で学びをつなぐ力を高めた姿と学びをつなぐ力



本単元で目指す子どもの姿は、箱やボール、棒などを掌に載せ、バランスをとりながら平均台を移動する子どもである。この姿が、本単元で学びをつなぐ力を高めた姿である。このような姿にするためには、まずは、自分の体や用具の動かし方に着目し、自分のできない原因を自覚させる必要がある。体や用具の動かし方の観点が記された「動きのカルテ」を基にして、自分の体や用具の動かし方に着目させる。そして、「友達の体や用具の動かし方」が記された「みんなのカルテ」を提示する。すると子どもは、自分の体や用具の動かし方と友達の体や用具の動かし方と共通点や相違点があることに気づき、うまくできない原因が相違点にあるのではないかと考える。このように、「みんなのカルテ」を用いて、既有事項である自分の体や用具の動かし方と課題解決に必要な情報である友達の体や用具の動かし方とをつなぎ、自分のできない原因を克服するためには、この「動きのこつ」が必要なのではないかと、仮説をもつ。そして、そのこつが自分に合っているかどうかを運動したりタブレット端末

相違点を問う。子どもは、**比較するすべ**を用いて、**自分の体や用具の動かし方（既有事項）**と友達の体や用具の動かし方（情報）とを比べる。そして、相違点に挑戦の場を達成できない原因があるのではないかと気づき、「多くの人と同じように、腕の力は抜いてやわらかい感にしてみようと、挑戦の場を達成できるのではないかと友達の体や用具の動かし方をまねしてみよう」と考へ、体や用具の動かし方を発表した子どもに、「どなたか肘を曲げたのですか？」などと、体や用具の動かし方の程度を問いつつ、友達の体や用具の動かし方と同じようにすれば、動きが身に付くとは限らない。問いつつ、友達の体や用具の動かし方を基に、「〇〇さんは肘を少しだけ曲げていたけど、僕は、脇腹にくっつけるくらい肘を曲げるとちょうどよい」というような動きのこつを見いだしやすくしておく。

ここでは、仮説をもった状態なので、次の働き掛けで実際に運動させて、仮説を検証させる。

働き掛け 4
友達の体や用具の動かし方をタブレット端末で撮影させながら試させる。

できない原因を克服するための体や用具の動かし方を試すことで、動きのこつを見いださせ、動きを身に付けさせるための働き掛けである。「あの体や用具の動かし方をまねしてみよう」と考へた子どもに、自分が試している友達の体や用具の動かし方をタブレット端末で撮影させながら、自分の運動感覚や撮影している友達の評価により、動きのこつとなり得るかを判断させる。1つの動きのこつを試す時点で、自分で設定した挑戦の場を達成できない子どももいれば、できない子どももいる。できない場合には別の体や用具の動かし方を「みんなのカルテ」から選んだり、友達から教わったりしながら試させて、再度評価させる。子どもからは、「できない原因を克服できそうな体や用具の動かし方を選ぶ→何度か試す」という姿や、「できない原因を克服できそうな体や用具の動かし方を選ぶ→試すうまくいかないや→選び直す」という姿が見られ、運動を繰り返す。このとき子どもは、**比較するすべ**を用いて、**自分の体や用具の動かし方（既有事項）**と友達の体や用具の動かし方（情報）を試し自分の体や用具の動かし方とを比較する。運動とおして仮説を検証し、挑戦の場を達成するための動きのこつを見だし、挑戦の場を達成する（動きを身に付ける）ことができるようになる。これが、**箱やボール、棒などを掌に載せ、バランスをとりながら平均台等を移動する動きのこつを見だし、動きを身に付ける子ども**である。

動きのこつを見いだして動きを身に付けた子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、「このこつはうまくいかないが、このこつはうまくいく」というように、動きを身に付けられなかつた自分の動きと関係付けて動きを身に付けた自分をとらえる。その姿を表出させよう。学習課題に立ち返らせ、「どうして挑戦の場を達成することができたのでしょうか」と問い、ワークシートに考へを記述させる。

6 本時の構想 4 / 4 時間（45分授業）

(1) ねらい

比較するすべを用いて、**自分の体や用具の動かし方（既有事項）**と友達の体や用具の動かし方（情報）とを比べ、箱やボール、棒などを掌に載せ、バランスをとりながら平均台を移動する動きのこつを見だし、挑戦の場を達成する（動きを身に付ける）ことができるようになる。

(2) 主張（展開） 3Q（45分）

このような子どもに（C0）

- 箱1つやボール1つ、棒1本を掌に載せて、落とさないように歩いて運ぶ動きを経験している。
- 箱1段を並べたコースや低い平均台コースを歩いて端から端まで渡る動きを経験している。
- 箱1つやボール1つ、棒1本を掌に載せながら、跳び箱1段を並べたコースや低い平均台コースを歩いて渡る動きを経験している。
- 2年生のとき、動きを身に付けるには、体の部位の動かし方に着目して運動する経験はしているが、関係の部位に着目したり、誤った動かし方に着目したりしている子どももいる。
- 2年生のとき、課題を解決するのに適した体や用具の動かし方が分からないときは、友達の体や用具の動かし方を参考にしようとする意識が弱く、自分の体や用具の動かし方を身に付けることができていない子どももいる。

このように働き掛けると【働き掛け1】

- 工夫の観点を示し、難易度を上げた挑戦の場で運動させる。
 指示「前回の授業で、ほとんどの人が、箱やボール、棒などを1つだけ掌に載せて、平均台を歩いて渡る動きを行いました。注文された荷物を落としたり、自分がコースから落ちたりしないように運ぶことができましたか」
 発問「もっと荷物を変えたりコースを変えたりして、やってみたいですか」

指示「では、どのように難しくすればよいのでしょうか。こちらの『工夫の観点』（「観点」という言葉が子どもには分かりにくいので、「動きのくふう」とする）を見て、何をどのように変えるのか考えて実際に運動してみましょう」

発問「どんな荷物やコースに挑戦したいですか。挑戦したい荷物やコースをワークシートに書きましょう」

- ※ 工夫の観点を見ただけではどのように工夫すればよいか分からない場合は、教師から例示したり、友達のアイディアを聞かせたりする。
- ※ ワークシートの記述から、次時の場の設定やグループ編成を考える。似たような挑戦の場の子どもでグループを組ませる。

＜工夫の観点＞

- ・箱、ボール、棒【用具】
- ・1つ、2つ、3つ【数】
- ・高く、低く【高さ】
- ・長い、短い【長さ】
- ・重い、軽い【重さ】
- ・前、横、後ろ【向き】

このようになり (C1)

- 工夫の観点を見て、自分が挑戦したい場を考え、実際に運動してみる。
 - ・僕は、ケーキ（箱）を2つ重ねた荷物を、低い平均台コースで歩いて渡りたい。
 - ・私は、ケーキ（箱）の上に宝石（ボール）を載せて、高い平均台コースを歩いて渡る。
 - ・僕は、カラー杖（体育棒）を掌に載せて、跳び箱コースを渡れるようにがんばる。
- ※ 「工夫の観点」を基に、掌に載せる用具を変えたり、コースを選択したり、動きを工夫したりして、挑戦の場をいろいろと試す。実際にやってみて達成できなかった挑戦の場を選択し、「達成できるようにになりたい」と考えた子どもを、問いをもったと判断する。試していないにもかかわらず、単に難しい挑戦の場に挑戦したいと考えた子どもは、想定と違うので問いをもっていないと判断する。

このように働き掛けると【働き掛け2】

- 「動きのカルテ」を提示し、タブレット端末で撮影させながら運動させる。
 - 発問「前回の授業で、自分が挑戦したい荷物やコースが決まりました。どうしたら、荷物を落とさないように運んだり、コースから落ちないように移動したりすることができるのでしょうか」
 - 発問「どうすればよいか困っている人は、手を挙げましょう。何に困っているのですか」
 - ※ 困っている人がいたら、『動きのカルテ』を提示する。
 - 指示「困っている人のために、『動きのカルテ』を用意しました。それを基にしながら、自分はどのように体や荷物を動かしているのか確認してみましょう。」
 - 指示「『動きのカルテ』に○を付けたり、別のこつを見つけた人は、その他のところに書いたりしましょう。書けそうですか。質問や意見はありますか」
 - ※ タブレット端末を借りたいという声があったら、iPadを使わせる。
 - 指示「使い方ですが、やる人と撮る人とに分かれて、撮り終わったら映像を見ながら動きのカルテを記入する。そして役割を反対にして同じようにやるというやり方でやりましょう。iPadは2人か3人で1台使います」
 - 指示「また、自分の『動きのカルテ』を書き終わったら、体育館の壁に貼ってある拡大した『動きのカルテ』に、自分と同じ考えのところにシールを貼ったり、その他に書いたこつを付箋に書いて貼ったりしましょう」
 - 指示「集合。挑戦の場をクリアした人は立ってください。最後に、今日の授業の感想と次の目標をワークシートに書きましょう」

このようになり (C2)

- 困っていると挙手し、何に困っているのかを発表する。
 - ・どうするとできるようになるか、分かりません。
 - ・なんでできないんだろう。
- 質問したり、意見をしたりする。
 - ・自分の動きが見たいので、iPadを貸して欲しいです。
- なぜ達成できないのか、自分の動きを「動きのカルテ」を視点に調べる。
 - ・動画を見ると、私は、足下ばかり見ている。これが悪いのかな。
 - ・背中が丸まっているぞ。これでよいのかな。
- 拡大した動きのカルテにシールや付箋を貼る。
 - ・僕は、こっちにシールを貼ろう。僕と同じところにシールがいっぱいあるぞ。
 - ・私は、こっちにシールを貼ろう。私と同じところにシールが少ないな。
- ※ 「動きのカルテ」に○を付けたり、その他のこつを記述したりした子どもは、自分の体や用具の動かし方に着目したと判断する。

このように働き掛けると【働き掛け3】

- シールや付箋が貼られた「みんなのカルテ」を提示し、「自分の動きのカルテ」と「みんなのカルテ」との共通点や相違点、動かし方の程度を問う。
- 指示「前回の授業で、荷物を落とさないように運んだり、コースから落ちないように移動するには、どうしたらよいかを考えて、「動きのカルテ」を書きました。みんなの意見をまとめたものが、こちらの「みんなのカルテ」になります」
- 指示「多くの人がここの部位はこっちの動かし方をすると選んでいますね。自分のカルテとみんなのカルテ比べて、同じところや違うところを発表しましょう」
- 指示「その他のこつにも多くの付箋が貼られていますね。自分が見付けたこつを発表してください」
- 発問「その部位は、どのくらい動かしただのですか」
- ※ 必要に応じて、体や用具の動かし方の程度を問い返す。
- 発問「『みんなのカルテ』を見たり、友達の発表を聞いたりして、自分が考えたことと違う、もしくは自分は気付かなかったという意見がありましたか。それでは、皆さん。挑戦の場を達成できなかった原因（理由）は何だと思えますか。これが原因ではないかと思うものを四角の中に書きましょう」
- 指示「前回の授業で自分の決めた挑戦の場をクリアしたという人は、クリアする前のことを考えて、できなかった原因を書きましょう」

このようになり (C3)

- 「動きのカルテ」を記述して気付いたことの発表を聞いたり、「みんなのカルテ」を見たりして、共通点や相違点を探す。
 - ・僕は、背中を真っ直ぐにした方がよかったです。しかも、背中に力を入れるのではなく、軽く力を抜いて真っ直ぐにした方がうまくできました。
 - ・私は、足下を見ないで、荷物を見ていたらうまくいきました。
 - ・僕は、〇〇さんと違って、足下や荷物だけではなく、どっちも見るようにしました。そうしたら、端まで行けました。
 - ・あんなやり方があったのか。僕は、気が付かなかったな。
- 自分のできない原因に気付き、友達の体や用具の動かし方を試したくなる。
 - ・△△を選んでいる人が多いぞ。僕とは違う。もしかして、△△のように動かしていたのがよくなかったのではないか。
 - ・〇〇さんは、私と違う意見だ。これは正しくないのかな。これがうまくできない理由じゃないのかな。試してみたいな。
 - ・もしかして、僕が気付かなかったあのやり方がうまくできるためのこつなんじゃないかな。まねしてみよう。
- ※ 「友達の体や用具の動かし方を自分に取り入れれば、挑戦の場を達成できるのではないか。友達の体や用具の動かし方をまねしてみよう」というように、友達の体や用具の動かし方を試してみたいと考えた子どもに、次のように働き掛ける。ただ、「まねしたい」という言葉は子どもから出にくいことが予想される。ここでは、自分のカルテとは別の体や用具の動かし方を原因として記述をした子どもを通過者と見なす。

このように働き掛けると【働き掛け4-①】

- 友達の体や用具の動かし方をタブレット端末で撮影させながら試させる。
- 指示「『これがよくなかったからだ』といううまくできなかった原因（理由）や『これに気を付けるとできるかもしれない』という動きのこつはありましたか。自分とは違うこつや気付かなかったこつを実際に運動して、挑戦の場を達成できるかどうか確かめてみましょう」
- 発問「質問や意見はありますか」
- ※ タブレット端末を借りたいという声があれば、貸し出す。
- 指示「ペア（もしくはトリオ）で活動します。挑戦をする人はペアの人に気を付けて運動しているのか、どんなこつを試しているのかを宣言してから挑戦しましょう。ペアの人は、宣言しているところも撮影し、やりたいことができているかどうかをしっかりと撮影して、アドバイスしてください」
- ※ タブレットを使うペア（もしくはトリオ）には、挑戦者の宣言を動画で撮っておくように指示する。

このようになる (C4-①)

- 比較するすべを使って、自分の体や用具の動かし方（既有事項）と友達の体や用具の動かし方（情報）を試した自分の体や用具の動かし方とをつなぎ、挑戦の場を達成するための動きのこつを見だし、挑戦の場を達成する（動きを身に付ける）。
 - ・私は、足下にしていたけど、多くの方は荷物を見るって言っていたから、私は荷

物を見ながら挑戦します。(挑戦後) みんなの言うように、やっぱり足下よりも荷物を見た方がよいかも。

- ・荷物を持つ腕を体の横ではなく、体の前にしたらどうかな。私は、荷物を前に挑戦します。(挑戦後) だめだ。うまくいかない。これは合っていないな。
- ・僕は背中を真っ直ぐにします。(挑戦後) ○○さんの意見で背中を丸めるをやってみたけど、うまくいかなかった。他のこつを試してみよう。
- ・みんなのカルテを見ると、荷物を持たない腕は、体の横に開いてバランスをとるようにした方がよいみたいだ。これに挑戦しよう。(挑戦後) やってみると、よさそうだ。もう一度試してみよう。
- ・僕は、目線を荷物にしていたけど、○○さんは目線は足下や荷物のどっちかを見るのではなく、足下を見たり荷物を見たりして、目線を変えるっていつていた。僕は目線を変えるに挑戦します。(挑戦後) できるようになったよ。

※ 子どもが自分のできない原因を基にして、それを克服できそうな体や用具の動かし方を「みんなのカルテ」を見たり、友達から教えてもらったりしながら挑戦しているかを見取る。

※ 挑戦の場を達成した(動きを身に付けた)かどうかを、実際の子どもの様子で判断する。

このように働き掛けると【働き掛け4-②】

- どうして、挑戦の場を達成できたのかを問う。

発問「どうでしたか。挑戦の場をクリアすることができましたか。最後にワークシートを書きます。質問は2つあります。A. 挑戦の場はクリアできたか。できなかったか。B. その理由。どうしてできるようになったのですか。もしくはできるようにならなかったのですか、の2つです。ワークシートに答えを書きましょう」

- ※ 以下のようなワークシートを配布する。
- ※ 書き方で分からないことがあったら、質問を聞いて答える。

A. ぼくは(わたしは)、自分の挑戦の場が

クリアできました。 クリアできませんでした。

B. どうしてクリア(できた・できなかった)かというと、

このようになる(Cn)

- 箱やボール、棒などを掌に載せ、バランスをとりながら平均台を移動する動きを身に付けるための運動のこつが分かる。

・僕は、(私は)自分の挑戦の場がクリアできました。どうしてできるようになったかというと、僕は、背中を丸めて、腕は固定した方がよいと思っていたけど、みんなのカルテを見たら、背中を真っ直ぐにして、腕の力を抜いてやる方が多かったので、それに気を付けてやってみたからです。

7 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定した「考えるすべ」を使って、課題解決に必要な情報と既有事項とを関係付けることができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、学びをつなぐ力を高めた姿になったか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け4-①において、比較するすべを用いて、友達の体や用具の動かし方(情報)を試した自分の体や用具の動かし方と自分の体や用具の動かし方とをつなぎ、動きのこつを見いだすことができたかを、働き掛け3のワークシートと働き掛け4での発言により判断する。

具体的には、働き掛け3のワークシートに、 のような自分のできない原因を記述し、働き掛け4で原因を克服できそうな友達の体や用具の動かし方を試して、動きのこつを見いだしているかどうかを、子どもの発言で判断する。

- ② 働き掛け4-①②において、動きのこつを見いだして、動きを身に付けることができたかを、4-①の子どもの様子と4-②のワークシートの記述により判断する。具体的には、 のように、挑戦の場を達成する(動きを身に付ける)ことができ、 のように、動きのこつを複数個(こつの要件は、できない原因を克服するための動きのこつが含まれていること、教師が想定する動きのポイント「肘は曲げる、背中を真っ直ぐ、腕は力を抜いて」から外れていないこと)記述してあるかどうかで判断する。

※ 上記①、②の両方があれば、表れありと判断する。